

コーディネーター研修

～コーディネーターとしての実践力を高める～

令和5年6月2日(金):浜田合同庁舎

【説明】「結集！しまねの子育て協働プロジェクトについて」

島根県教育庁社会教育課 武田 尚志

最初に、『結集！しまねの子育て協働プロジェクト』について説明がありました。地域住民や企業・団体等の参画により、家庭・学校・地域が連携・協働しながら、地域総がかりで子どもの成長を支え、地域を創生する活動を推進する。そのため、学校と地域住民が、めざす「子ども像」や「地域像」な

どのビジョンを共有し、地域全体で教育に取り組む体制づくりと機運の醸成を図るといった目的を示されました。次に、県内で行われている「地域学校協働活動」の具体例について紹介がありました。最後に、今日の研修は様々な立場の方が一堂に会すること

から、学びや出会いを通してそれぞれの思いや願い、違いや同じところなどに気づき、明日へのやりがいや力に変えてほしいと締めくくられました。(説明概要)

【講義】「しまねのコーディネーターに求めること」

島根大学大学院教育学研究科・講師 大野 公寛 氏

自己紹介 (近くの数人で)

- ・この場にどんな「コーディネーター」が集まっているか知ろう!
- ・今、「コーディネーター」として最も力を入れていることは?

続いて、簡単なワークを入れながら次の3点について話をされました。

①コーディネーターの「多様性」について

様々な現場で様々な課題に取り組むコーディネーターがいることを知ろう。(地域学校協働活動推進員、魅力化コーディネーター、コーディネート機能を担う地域の人材)

②「立ち位置の自覚」について

自分がどの現場でどのようなコーディネート機能を担っているのかを自覚することが大切。(現場はどこか、その業務は、マネージャーorプレーヤーorサポーター?)

③コーディネーターの「機能の変化/創出」について

- ・コーディネーターの機能は現場の状況や段階で変化する。それぞれが果たす役割は多様である。
- ・必要な機能を自ら現場に創出する。コーディネーター自らが新しい役割を生み出していき・創っていく。そのためにも、コーディネーター同士が知り合い学び合う必要がある。



(講義概要)



☆経験の共有「コーディネーター」の成功体験から学ぼう!

私がいたから成功したこと、実現したことは?その成功の鍵とは?

OAさんの場合→小学生が、地域の「寄り合い処」(介護予防事業)などで活用できる「校歌」を使った体操を考案。そのコーディネートをした。成功の鍵は…学校の思いを地域に伝えながら進めたこと。

OBさんの場合→管理職対象に3、4年越しで実現した「防災勉強会」、事業の小学生キャンプをきっかけに始まった現役ママによる「地域食堂」、40店舗が出店した「マルシェ」。

成功の鍵は…小まめな情報共有、「楽しい」を逃さない、次を見越して計画

☆どうつながる?

○価値観の相互尊重

価値観は必ずしも一致しない。お互いがWIN-WINになるために、「何でだろう」と考えることが大事だ。その上で異なったものをつないでいく。

○異質な価値観の出会い

違うことがおもしろい、違うことが大事…だとも思える。

○つながることで何かが生まれる

今まで出来なかったことが出来るようになる。

☆学校とかかわるコーディネーターのポイント

○社会とつなぐ

子どもの学びや知識は、社会での生活に落とし込まれていない。リアルな社会で学ぶために、学校は社会に開かれた教育課程でなければ成立しない。誰が学校を開くか、これがコーディネーターの役割だ。

○社会でうけとめる

学校が開かれたら、子どもを、子育てを、教育を社会で受け止めよう。子どもの存在を無条件で肯定する。地域が持っている重要な役割だ。つなぐ時のポイントとなる。社会のつながりが強いほど子どもの教育達成が良くなる。つないだ先の地域がどんな社会であるかが大事だ。

○社会へとむすびなおす

教育・子育ては今、家庭・本人だけの責任に課せられている。教育=公共事業



【質疑・情報交換】

Q. 地域側がやり続けていると、どうして子どもたちに関わる必要があるのか?という気持ちになってくるが。

A. 未来の地域の在り方を考えた時に、そこで生きていくのは誰?子どもだ。地域づくりを考えることそのものが未来を生きる子どもを育てること。学校と地域づくりは深く

結びついている。関わり続けていくことが、子どもたちの住みたいという思いをつくらせているのだと、コーディネーターとして思っている。教育をみんなで担っていく。

【実践発表】「コーディネーターとして大切にしていること

～三隅中学校区地域学校協働活動の取組より～

浜田市共育コーディネーター (三隅中学校区)

渡辺 支帆子 氏

浜田市まちづくり社会教育課・派遣社会教育主事

原田 千里 氏

①浜田市の地域学校協働活動の推進体制について

浜田市教育振興計画の施策の1つに「はまだっ子共育」において地域学校協働活動の推進がある。

「はまだっ子共育推進事業」の理念
地域ぐるみで子どもを育み、子どもも大人も、そして、地域も高まり合おう

「共育コーディネーターの役割」とは

1)地域の課題解決に必要な総合的な連絡・調整に関する活動

(学校⇄地域住民)(地域住民⇄地域住民…)

2)地域・学校の教育活動への支援や企画参加促進に関する活動

地域ボランティアの情報収集、確保、紹介、養成
学校と地域の協働活動に関する企画
学校・家庭・地域への情報発信、情報提供

学校と地域のパイプ役

③共育コーディネーターとして ～渡辺さんの実践紹介 (三隅中担当)～

○昨年度は月2回学校へ
(今年度はこれまでに10回の打合せ)
学校と地域をつなぎ行った活動

- ・特別支援学級の神楽体験
- ・特別支援学級の夏野菜作り
- ・保健室登校の生徒制作の雑貨販売
- ・地域、OBによる部活動支援
- ・1年生による職業インタビュー



授業や総合的な学習の時間は、情報収集のため見学も

④おわりに (原田さんから…渡辺さんの取組をみて)

☆学校側のメリット

- ・タイムリーに相談・調整ができる
- ・タイムリーな情報を得ることができる
- ・地域の情報が近くなる→地域に目を向けるきっかけになる

☆地域側のメリット

- ・タイムリーに相談・調整ができる
- ・学校の情報が近くなる→学校に目を向けるきっかけになる
- ・地域に目を向けてもらえる→協力者増、活気が!!

渡辺さんのココがステキ☆

- ・とにかくやってみよう! **チャレンジ精神、行動力**
- ・きっかけを大切に!できるだけ断らない!(時と場合によって) **思いやり、責任感**
- ・日頃からの関係づくり **コミュニケーション力**
- ・想いや情報の見える化 **表現力**



○学校側から机とホワイトボードが用意される

ホワイトボード活用エッセイ

- ・活動紹介
- ・参加者・ボランティア募集
- ・計画・企画の様子を紹介 etc
- ・時にはクイズを出しながら…

書いてると、立ち話が増えた。
生徒から「こんにちは」
先生から「いつもありがとうございます」
「地域ではこんな事業をやっているんですね」
「相談があるんですけど…」

WINは学校が大きいと思うが、地域にも小さなWINがあるのでそれを伝えていきたい

失敗や反省もすべて大事な経験

「今、自分にできることを全力で!」
～環境や立場にとらわれないで、思い立ったらすぐ行動!!～

コーディネーターをやってみて、色んな人と話が出来ると、パワーがもらえる、つながりができて世界が広がる、プラスしかない

地域・学校によって実情は違う。できることも違う

(発表概要)

机…。(最初は)居心地悪いな。その内学校の実情がわかって。

ホワイトボードの活用? 楽しそう♪役割ができた!

ホワイトボードって情報提供・共有だけだと思っていたが **コミュニケーションツール**だ **協働活動の種が飛んでくる 最強!!**

【演習】「実践力を高めよう」

【全体講評】

島根大学大学院教育学研究科・講師 大野 公寛 氏

- 講義・実践発表をふまえ「自身の業務における達成課題」をフリップに書く
- グループをつくる
自身の課題として「多様な関係づくり」「活動の充実」のあてはまる方に移動する
- グループの実現させたいテーマをパネルに書く
- 講義・実践発表を聞いて「参考にしたいな」と思ったことを付箋に書く
- 書いた付箋をパネルに貼りながら紹介する
- 出た意見を全体へ紹介する

○グループの話し合いの様子を聞く
「関係づくり」…楽しく感じてもらえるのが大事、異なる時間感覚を認識する(地域と学校)、ネットワークづくり
参画しやすい魅せ方、日常のコミュニケーション
「活動の充実」…持続可能な形ってどんなもの?、まず実践、ふり返り
情報共有、地域の人々の活動するうえでのモチベーション

○大野先生から「楽しさ」を見せる
・新しく何が出来る、新しい人に出会える
・楽しさを提供してもらうのを待つのではなく、自分で創り出す(相手のWINを探していく)

「手放す」…関わってくれる主体を育てる(自分でやった方が早いときもあるが)話し合うことで実践が変わっていく。コーディネーターが学べば現場が変わる、現場の中でも学ぶ。



【アンケート】一部抜粋

- ・大野先生の講義がとても分かりやすくてよかった。いろいろなコーディネーターの多様性を知ることができ、とても貴重な学びとなった。
- ・地域でかかわる人に「何のために」を伝えることがとても難しい。
- ・実践発表者の考え方に共感した。ポジティブな姿勢に励まされた。
- ・実践例をもっとたくさん聞いてみたかった。
- ・同じような立場の方から、リアルな話を聞くことができ参考になった。

- ・研修を受けて、自分自身が学校とボランティアの要請にのみ追われていることに気づかされた。
- ・気張らず1歩ずつ楽しみながらつなげる人になりたい。
- ・自分がこれまでやってきたこと、そしてこれからのことを内省する時間になった。
- ・グループワークで新しい出会いもあり、話せる仲間が研修を通して増えた。
- ・丁寧に対話をして想いを共有することが、お互いのWIN-WINにつながると思った。